

北海道教育委員会教育長 様

北海道浜頓別高等学校長 榆木 伸司

次のとおり令和元年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

<p>目標に向かって心豊かで、たくましく、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p>(1) 進んで学習に取り組む意欲・態度を高め、社会で生きる実践力を高める。</p> <p>(2) 挨拶の励行や生活習慣の改善を促し、自己をコントロールできる力を高める。</p> <p>(3) 進路に係る情報を進んで求める姿勢及び目標を定め、ねばり強く挑戦する姿勢を育てる。</p>

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<p>○習熟度別授業 英語、数学は習熟度別展開授業を実施し低学力者の基礎学力の定着を図り成果を上げている。</p> <p>○公開授業週間の機会をはじめとして教科横断的に授業見学の交流を図った。アクティブラーニングなど生徒が主体的に取り組む授業の工夫が見られた。</p> <p>○学年ごとに任されているが朝学習、朝読書を実施、また、今年度初めて学びの基礎診断テストを2月上旬に実施し結末である。講習等を実施し個々の学習の伸長を図っている。</p>	<p>学力向上に向けて、学年団や教科担任が、日々の授業やHR活動の中で、週末課題、朝学習、宿題等工夫をしながら取り組んでいることがうかがえる。家庭学習習慣定着へ向けには、幼少期のコミュニケーション等、特に小中学校の生活習慣が大きく影響するので、連携を強化することで、改善に向けて進んで欲しい。やらされる学習から自らやる学習へ指導を進めていくために、教員自身が他校の実践例を研究する等、意欲的に授業改善に取り組んで欲しい。</p>
改善方策	<p>今年度は教員配置の関係から2展開で実施しているが、将来の進路実現のことを考えると可能なら3展開で実施したいところである。学び直しの時間を設けていく。公開授業の機会を増やし、また、研修会、研究会を通して更なる改善・工夫を促していきたい。タブレットなどICT機器の充実、学びの基礎診断の分析結果を共有し、フィードバックしていく。</p> <p>資格・検定を活用し学習機会を増やす。週末課題等、生徒が取り組みやすい課題を用意し家庭学習の習慣化を図っていく。進路目標の早期決定を促す。学習の大切さについて情報提供を続け行く。</p>	
生徒指導	<p>○年度の前半に、スマホやSNSに関連したトラブルが複数発生した。そのため、KDDIより講師を招聘し、スマホ・ケータイのマナーについて生徒向けの講話を実施した。人権尊重に関しては、北海道医療大学の冨家先生に2回の講話を実施してもらった。</p> <p>○面談は各学年で複数回実施することができており、全体で生徒情報を共有する仕組みも作った。</p> <p>○生徒数減少により従来通りの行事運営や部局活動が困難になってきている。生徒会行事は前年通り実施できた。サッカー部が廃部となり、茶道部も卒業式後には部員ゼロとなる。</p>	<p>教育相談体制を充実させ、引き続き多様な生徒への対応をお願いしたい。SNS等スマートフォンの指導について、外部の方による講演会を実施したことは、評価できる。今後は、多方面の外部関係者も含めた講演会等を実施し、あらゆる角度からの指導を実践して欲しい。ケータイ、スマートフォンは生活習慣や学習習慣にも大きな影響を与えているので、教育という観点から、しっかりと説明した上で、生徒の手から離す時間を確保する等、依存防止も含めて、使用のルールを決めるのも一つの方法である。</p>
改善方策	<p>◇スマホ・ケータイ講話については、行事として組み入れて毎年早めの時期に実施できるようにする。生徒が主体となって、スマホのルールなどを決定できるよう指導していく。</p> <p>◇教員と生徒間での相互理解のみならず、生徒間で相互に理解を深めサポートしあえるような力を付けさせるため、コミュニケーション力を向上させるような取り組みを増やしていく。</p> <p>◇生徒数、教員数の減少に合わせた行事日程や行事内容への変更を考えていく。少年団から部活まで小中高と継続してスポーツなどができるように連携していく。</p>	
進路指導	<p>○今年度は、次年度より開始される給付型奨学金に関する校内研修を実施し、教員間での情報の共有を図るとともに、3学年の生徒へ情報を提供した。また、昨年度に引き続き上級学校訪問を実施して本校教員へ情報を提供した。</p> <p>○昨年度に引き続き、キャリア教育の充実を図るため、町内を中心とする近隣企業や上級学校との協力によって進めることができた。</p>	<p>職場体験学習等のキャリア教育に力を入れ、地元企業の説明会や進学層段階などの多くの機会をもつことで、生徒の意識向上、地域活性化に役立っている。管内求人も多くあり企業説明会については、可能であれば、猿払村、中頓別町等の幅を広げることも検討して欲しい。また、インターンシップにも新規企業について検討して欲しい。</p>
改善方策	<p>◇教務部と連携して給付型奨学金に関する生徒への情報提供を行うとともに、入試改革にもなって制度を変更する学校に関する情報の収集と共有を図る。</p> <p>◇次年度は生徒数の削減ともなっており教員数も削減されるため、進路講習の見直しを進めるとともに、生徒数が削減されても適切なキャリア行事が実施できるよう、外部機関との連携や行事運営の改善を図る。</p>	
健康・安全指導	<p>○生徒が健康管理に自ら取り組めるよう、保健指導の徹底や保健に関する情報の積極的な発信を行う必要がある。</p> <p>○全校の個人面談等を通して教育相談の充実を図ることができた。必要に応じて保護者や外部機関と情報共有を行うことができた。</p> <p>○定期的な安全点検を行い、軽微なものに関しては修繕できたが、大規模な修理が必要な場所に関しては未修繕である。</p>	<p>教育相談体制の充実が、生徒の安定した学校生活に大きく影響するので、引き続き、丁寧な指導を行ってほしい。自己の健康管理意識や安全意識を高める指導を、あらゆる角度から継続してほしい。また、心の不調が他に与える影響が大きいため、養護教諭の役割は非常に重要であり、先生方との連携を図り、変化を見逃さないようしっかりと観察して欲しい。</p>
改善方策	<p>◇引き続き、教職員や保護者、外部機関と連携し、保健行事の円滑な実施をしていく。自校の健康課題に焦点を当てた指導ができるよう、面談や健康診断を通して課題を把握し、積極的に情報を発信する等改善に努める。</p> <p>◇継続して、全校生徒を対象とした健康相談を行い個に応じた教育相談体制の構築を図る。保健室で得られた情報や授業の様子等、情報共有を行い組織的な対応をしていく。</p> <p>◇計画的に点検を行い、修繕が必要なものに関しては迅速に対応し、生徒の安全管理に努める。</p>	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
信頼される学校づくり	<p>○HPのマイナーチェンジや、トップページの更新し易さ等がよい結果につながった。浜高だより、浜高ウェイブ、町広報など、内容を充実させ、さらに積極的な情報発信を行いたい。</p> <p>○中高連携、授業公開実施等取り組むことができたが、授業改善に向けて課題が残った。</p> <p>○地元関係者の協力の元で、教育資源を活用した体験型の授業を実施することができた。</p> <p>○職員の情報共有という点で、一定の意識向上が見られたが、共通認識、共通課題への取り組みという点で課題が残った。</p>	<p>町民から、「広報を楽しみにしている」等の声を聞くことがあり、浜高への関心を持っていることが伺える。地域との連携強化について、多くのイベントへの参加や、ボランティア活動への取り組みなど積極的に取り組んでいる。地域の教育資源を活用した体験活動についても今後も継続して欲しい。引き続きホームページ等のピーアール活動を継続して行ってもらいたい。</p>
改善方策	<p>○全教員がHP更新できるよう研修会を持つ等の改善を図る。また広報、お便り等についても、内容の改善とデジタル化の活用等を模索する。報道機関の活用、連携を強化する。</p> <p>○アンケート結果や評価結果をフィードバックさせ、授業改善へのPDCAサイクルを確立させる。</p> <p>○地域の各方面の専門分野の方をお招きしての講演会を実施するなどして、さらに内容を充実させていく。</p> <p>○担任、学年、分掌による連携において、報告、連絡、相談さらに調整・確認の重要性を強く意識し協働体制による教育活動の推進を図る</p>	
組織運営	<p>○教育活動の実践、そのものが目的化する傾向にであったことが課題である。学校経営シラバスを強く意識し、より具体的な目標を掲げ、実践・評価・改善の確率に向けた、意識の統一を図る必要がある。</p> <p>○教育活動の即時反省、課題の重点化を行い、業務の効率化を図っているが、課題が多く残った。再度、業務の効率化について検討する必要がある。</p>	<p>経験も、年齢も若い先生が多い中で、熱心に取り組んでいることがうかがえる。まずは、しっかりと子どもと向き合い、暖かく包み込むような心で、生徒を指導していただきたい。先生方が自信を持って心を込めて指導をすることで、徐々にではあるが、生徒も成長していきま。浜高のために頑張ってください。</p>
改善方策	<p>○全教職員が学校経営シラバスの重点を、より強く意識し、あらゆる教育活動において、目標を明確に、共有し実践することが重要である。また、実践結果についてPDCAサイクルを確立させ、発展的に改善する体制を強化する。</p> <p>○単なる時間短縮ではなく、時間管理、業務管理を含めた効率化を図り、スクラップ&ビルドを活用し、新たな発想やアイデアを取り入れた、取り組みを実践する。</p>	
教職員の資質向上	<p>○教員それぞれが工夫をしてICT教材を活用しながら、生徒の興味、関心を高め、深い学びに向けた授業実践を行っているが、評価、改善において不十分点が多いため、課題が多く残っている。</p> <p>○各種通知や事故の情報等を職員に提供し注意喚起を促した。自己の問題として捉え、危機管理意識の向上を図る必要がある。</p> <p>○外部の研修（特に授業改善）に積極的な参加を促し、資質向上に努めたが、全体共有という点で課題が残った。</p> <p>○協働という点では比較的機能したが、支援、助言という点で課題が残った。</p>	<p>他校の先生方との交流、他の機関との交流等、若い先生方が多い中、積極的に実践を積み重ね、指導力を向上させてもらいたい。ICT技術を活用した授業等のスキルは向上しているように伺える。保護者との対応や生徒への対応等、人間関係のスキルも非常に重要であるため、向上に努めてもらいたい。経験によって、積み重なる部分も多いが、研修等を積極手に実施するなどしてもらいたい。</p>
改善方策	<p>○教員個々の取り組みととどまっているので、研修会等と連動させ、学校全体として授業力向上につながる取り組みを実践したい。</p> <p>○日常の呼びかけとともに、職員会議や、研修の場とおして、危機管理意識を向上させる。事例研究等を積極的に取り入れ実践力向上に努めたい。</p> <p>○研修結果報告や、自らの実践報告など、互いに高め合う雰囲気作りのもと、研修活動の充実を図る。</p> <p>○「指導力向上」を意識させ、日々の実践を評価しあえる雰囲気作りと、ミドルリーダーが育つ環境づくりを行う。</p>	
公表方法	<p>学校ホームページ・学校だよりにおいて公表</p>	